

第2代九州地方会会長挨拶

九州地方会発足 30周年に寄せて

九州歯科大学 名誉教授 **木村光孝**
(第2代会長 昭和63年4月～平成4年3月)



1963年に日本小児歯科学会が設立され、20年後の1983年に地方会が発足以来、30年を迎え時代の流れを感じます。当時は大学を中心に高度な歯科医療を地域に平等に提供することが目的であり私も教授に就任して19年を経過しておりました。昭和の最後にあたる1988年に九州地方会会長に就任しました。1989年、平成元年に新たな気持ちをもって地方会の活動を活発に行い、その中でも私が目指した地域医療は、平等で基礎に立脚した臨床であり学術的根拠による臨床評価の始まりでもありました。一方、大幅な学生教育の変革の前時期（6年一貫教育）でもあり、子どもの全身を通し成長発育期の中で口腔を診る歯科学Dentistryそのものでした。しかし、医学の進歩とともに小児歯科医も口腔医学Oral Medicine ~Stomatologyの立場からまさに小児期の口腔機能はDNA以上に小児期の咬合・咀嚼能力がバランスのとれたものであれば、後天的環境要因によって小児期の末梢神経の臨床は成人期～老年期に至っても脳が学習を記憶します。全身的にも自律神経もおだやかに健康を育むことが可能でしょう。小児歯科医の着地点が口腔医学生理学的にも医学に大きく貢献することを期待しております。大いに子どもをサイエンスして下さい。